

標準的な仕事から
独自性のある領域へ

中小企業IT経営力大賞2011 IT経営実践認定企業
千葉県・歯科技工業 協和デンタル・ラボラトリーの場合

自社が力を発揮できるポジションは？ ITで技術者の「助け合い」を推進させる

歯科技工—お世話になって
る人は多いが接することは少ない
職種だ。模型を元に入れ歯や差
歯などの製作・加工を行う。主
取引先は歯科医院。業界の8割程
度が1、2人の事業所である。
そのなかで、社員40人が勤務す
る会社が、千葉県松戸市の協和デ
ンタル・ラボラトリーである。木
村二社長は業界の現状を見ながら
自社がどのようなポジションをと
るべきかを考え、インプラント技

工専門の会社へシフトしてきた。
「業界の7割くらいは健康保険
が適用される範囲内の仕事です。
しかし仕事量は多いものの、速
く安くが要求され単価が下がっ
てきていました。付加価値が高く
技術が活かせる分野がインプラ
ント技工だったので」
インプラントは骨の中にチタン
を埋め込む技法であり、周囲の歯
に負担をかけないのが特徴だ。た
だ高い技術が必要とされるため通

常の入れ歯より費用がかかる。健
康保険適用外であり、この方法が
選ばれるのは数%という。
しかし歯科技工士が腕をみが
き、インプラント技工のプロ
フェッショナルとなれば、事業は
伸びていく。それが木村社長の戦
略だった。
**CAD/CAMをいち早く導入
信頼の高さから仕事が増加**
技工士である社員は学会や各種

講演会で積極的に発表を行い、信
用を高めている。その結果、全
国から仕事の依頼がくるようにな
った。設計と製作にいち早くCAD
/CAMを導入。ジルコニア・セ
ラミックスの人工歯を製作するよ
うになってからは売上が急速に伸
びている。
ただ、仕事量の増加に伴い、「職
人の世界」である社内にも、一
定の仕組みが必要になった。



インプラント技工物等の
製作現場



会社概要

有限会社 協和デンタル・ラボラトリー

千葉県松戸市新松戸3-260-1
設立：1987年
従業員数：40名
事業内容：歯科技工（インプラント、
義歯、審美等）



代表取締役 木村健二氏

「製作の予定や順番などは特に明
確なものがなく、それぞれの感覚
で行っていました。量が増えて管
理が難しくなり、生産計画シス
テムの導入を検討し始めました」
この構想は千葉県が実施してい

た平成20年度「サービス産業生産
性向上モデル事業」に採択された。
あるべき姿に向かって進み出した
が、途中で足踏みしてしまっ…。
「理想像は描いたものの、我々は
ITに詳しくなく、社内で議論し
ているうちに時間が経ってしま
いました。『期限までにできそうに
ありません』と謝りに行ったのです」
木村社長はこう打ち明ける。

「期限も迫っていたため週1回
ベースで訪問。業務フローや会社
の概要を聞き、適切なソフトの候
補を示すなど、IT環境の整備を
進めていきました」と鬼澤氏。
生産計画のソフトは大手企業向
けの高価なものが多いが、手頃な
ものが見つかった。
「受注製作ですので、素材も製
作方法も1品ごとに変わりま
すし、試適のために仮納品して
戻ってから再進行する工程もあり
ます。これらを明らかにし、納期
別、担当者などで見られる仕組
みを運用しています」

対応策としてITコーディネー
タの活用を勧められ、千葉県で実
績のある鬼澤健八氏が急遽、同社
の支援に入った。

上嶋瀬氏は、システム活用の様
子をこう語る。誰が行っている
のか、納期が守れそうかがわか

サポーター紹介



ITコーディネータ
鬼澤健八氏
おにぞわIT経営支援オフィス
千葉県IT経営支援LLP
理事・事務局長

千葉県を中心に企業のIT経営成功事例を輩出し続けて
いるITコーディネータ。県内の支援機関からも、頼れる専
門家として依頼が多い。社員の意見をまとめるなど、改革を
進められる場作りにも定評がある。
協和デンタル・ラボラトリーへは、事業の期限までにシ
ステム導入を間に合わせるために急遽派遣されたのだが、そ
の後も月1回のペースで訪問し、支援を続けている。
「ITを進めるには専門家の方がおられて、IT導入には順序
があるということを知って先生に教わりました」と上嶋瀬氏
は振り返る。
2年間の歩みは、「ソフトを入れて、担当者の方々と実情
に合わせた仕組みを作っていました。まずCAD/CAMとの
チームに導入し、徐々に広げている段階です」（鬼澤氏）と
のことである。上嶋瀬氏の海外勤務に関する仕組み等も鬼
澤氏がサポートした。
木村社長は、「歯科技工業界以外の方から客観的に見て
いただき、外に目を向けられたのは大変良かった。私は「い
い人」と付き合いしていると次が広がると思っています。鬼澤
先生と出会って中小企業IT経営力大賞に応募する機会を
得たり、良い方向に進んでいます」と話している。

り、余裕のある人が手伝いに回
り、余剰の配置にも柔軟性が出た。
リーダーの計画立案業務は50%削
減されたという。木村社長は日ご
ろから「ITは管理されるために
ではなく助け合うために使う」と
話しているそうだが、それが実現
されつつある。

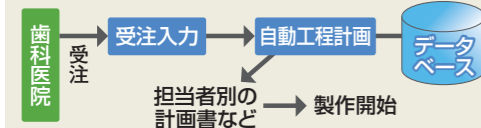
「新人たちが将来展望を持てる
よう世界に通用する技術集団を目
指します。まずは日本中に良いも
のを提供し、価値を認めてくれる
人がいればアジア新興国も対象に
していきます」
顧客から選ばれ、社員が誇りを
持つて働ける会社であり続けるこ
とが、協和デンタル・ラボラトリー
の願いだ。



IT経営推進のリーダー 上嶋瀬美奈氏（写真前列右）と
生産計画システムを進めた「補綴チーム」のメンバー

協和デンタル・ラボラトリーのIT活用

- インプラント技工物製作にいち早くCAD/CAMを導入
 - 取り扱い量が増え「生産計画をIT化」する必要性
- 千葉県の平成20年度「サービス産業生産性向上
モデル事業」に採択される
- しかし、思うように進まない…。
- ITコーディネータ鬼澤氏の支援を受け無事導入へ



技術が評価されれば 海外への展開も視野に

ところがこの4月から、生産計
画システムの中心人物だった上嶋
瀬氏がアメリカに居を移すことにな
った。木村社長は「これでシス
テムも終末か…」と思ったが、今
はインターネットが整備されてい

